

## 美術館バックヤードの位置付けに関する研究

Study on the positioning of the Museum back yard

○今村文悟<sup>1</sup>、堀切梨奈子<sup>2</sup>、佐藤慎也<sup>2</sup>

\*Bungo Imamura<sup>1</sup>, Rinako Horikiri<sup>2</sup>, Shinya Satoh<sup>2</sup>

In this research, we grasp the department of museums used in architectural planning studies and the composition of the rooms related to them. Furthermore, it aims to clarify the position of the "backyard" in the art museum by sorting out requests for departments and rooms in the competition / proposal relating to museums

### 1. 序論

#### 1.1 研究背景

現在、建築計画学において、美術館のおおよその部門構成比・諸室構成は示されているが、収蔵する作品ジャンル・活動の違いによる必要諸室の種類や面積の基準などは明確にされていない。特にバックヤードについては、その詳細が文献などに公開されていない事例も多く、新規に美術館を整備したり、増・改築を行う際の指針が示されていない状況にある。また、昨今では、収蔵庫を作品保管の場所としてだけでなく、調査・研究や展示の場、さらには教育普及の場として活用されている事例もあり、バックヤードに求められる役割が拡張してきているように見受けられる。そのため美術館の核となる機能が集まるバックヤードについて、その現状を整理し、今後、各館の運営方針やコレクション、活動に適した整備を行っていく必要があると考える。

#### 1.2 研究目的

本研究では、はじめに建築計画学で用いられている美術館の部門と、それらに関連する諸室構成を把握する。さらに、美術館に関するコンペ・プロポーザルにおける部門・所室に対する要求を整理することにより、美術館におけるバックヤードの位置づけを明確にすることを目的とする。

#### 1.3 既往研究と本研究の位置づけ

美術館計画の研究において、バックヤードに関する研究はそれほど多くない。館内学習活動の一環として行われている「バックヤード見学」に関する考察<sup>注1)</sup>や、資料管理をボランティアと共に行うアートマネジメントに関する研究<sup>注2)</sup>などは行われているが、建築計画に関する考察は見られない。本研究では、バックヤードについて、建築計画の視点から現状を整理して考察する。

#### 1.4 研究方法

文献調査により現在の建築計画学で用いられている部門・諸室の構成を整理する。また、美術館に必要なとされる部門・諸室、規模などが明記されていることから、美術館設計に関するコンペ・プロポーザルにおいて、実施要項のなかで要求されている部門・諸室を抽出する。それらの項目を整理することにより、美術館におけるバックヤードの位置づけを明らかにする。

### 2. 美術館の部門構成

文献で示されている美術館の部門構成は表1の様に分けられる。これらの部門は導入部門、展示部門、教育普及部門、サービス部門は来館者が入ることのできる公開部門。収蔵部門、調査・研究部門、管理部門を来館者の入れない非公開部門とされている。しかし、公開部門の中にも、展示部門の展示用倉庫のように来館者が入ることのできない諸室が存在するため、非公開部門のみをバックヤードと定義することはできない。また部門構成比においては図1のようになっており、建築計画学における基準は定まっていない。

表1. 美術館の部門構成と所室構成<sup>注3)</sup>

|     | 部門名     | 構成される所室                   |
|-----|---------|---------------------------|
| 公開  | 導入部門    | エントランス、受付、クローク、リファレンス など  |
|     | 展示部門    | 展示室、休憩室、展示準備室、展示用倉庫 など    |
|     | 教育普及部門  | 講堂、ワークショップ室、図書室 など        |
|     | サービス部門  | カフェ、レストラン、ショップ など         |
| 非公開 | 収蔵部門    | 収蔵庫、一時保管庫、搬出入室、荷解室、燻蒸室 など |
|     | 調査・研究部門 | 研究・調査室、資料室、写真室、制作室 など     |
|     | 管理部門    | 事務室、館長室、会議室、警備室、機械室 など    |

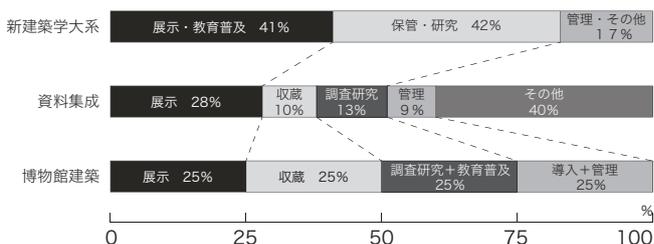


図1 文献における部門構成比

1：日大理工・院（前） 2：日大理工・教員・建築

### 3. コンペ・プロポーザルでの要求部門・諸室

近年の美術館建築の要求を把握するため 2000 年以降に実施されたコンペ・プロポーザルのうち、実施要項・基本構想を入手できた 14 事業（表 2）に対して調査を行った。

表 2. 調査対象のコンペ・プロポーザル

| 年度 | 事業名                                     | 主催者   | 延床 (㎡) | 方式        | 要求項目  |
|----|---|-------|--------|-----------|---|
| 1  | 2016 八戸市新美術館建設工事基本設計業務委託                | 八戸市   | 4,500  | 公募型プロポーザル | シーズンゾーン/ワイガヤゾーン   |
| 2  | 信濃美術館整備事業設計プロポーザル                       | 長野県   | 10,000 | 公募型プロポーザル | 展示部門/教育普及部門/ロビー・廊下・その他共用部門/調査研究部門/収蔵部門/管理部門                           |
| 3  | (仮称) 大阪新美術館公募型設計競技                      | 大阪市   | 15,000 | 公募型設計競技   | 展示エリア/コミュニケーションエリア/保存研究エリア/管理エリア/共用エリア/サービス施設/外構・その他                  |
| 4  | (仮称) 東広島市立美術館基本設計業務                     | 東広島市  | 3,000  | 公募型プロポーザル | 展示公開機能/収集保管機能/教育普及機能/調査研究機能/事務機能/導入部・共用部等                             |
| 5  | 2015 (仮称) 町田市立国際工芸美術館基本設計プロポーザル         | 町田市   | 3,000  | 公募型プロポーザル | 展示エリア/交流エリア/調査研究エリア/収集保存エリア/その他                                       |
| 6  | 京都市美術館再整備工事基本設計業務委託ただし、建築及び設備工事基本設計業務委託 | 京都市   | 21,000 | 公募型プロポーザル | 展示機能/アメニティ機能/教育普及機能/収蔵機能/調査研究機能/事務機能/その他機能・環境整備                       |
| 7  | 2014 滋賀県立近代美術館増築その他工事設計業務               | 滋賀県   | 15,200 | 公募型プロポーザル | 展示部門/情報・交流・アメニティ部門/収蔵部門/調査研究部門/管理共用部門                                 |
| 8  | (仮称) 太田駅北口交流施設設計プロポーザル                  | 太田市   | 3,200  | 公募型プロポーザル | 美術館機能/図書館機能   |
| 9  | 2013 新富山県立近代美術館(仮称)新築工事基本設計業務           | 富山県   | 9,750  | 公募型プロポーザル | 展示部門/保存・収蔵部門/教育普及部門/調査研究部門/管理・共用部門                                    |
| 10 | 2011 大分県立美術館(仮称)設計者選定公募型プロポーザル          | 大分県   | 11,000 | 公募型プロポーザル | サービス部門/展示部門/教育普及部門/管理研究部門/設備部門/共用部門/交通施設                              |
| 11 | 2010 前橋市美術館(仮称)プロポーザルコンペティション           | 前橋市   | 15,895 | 公募型プロポーザル | 展示、交流空間/管理共通空間  |
| 12 | 2008 墨田区北斎館(仮称)基本設計プロポーザル               | 墨田区   | 3,500  | 公募型プロポーザル | 導入、サービスゾーン/展示ゾーン/教育普及ゾーン/調査研究ゾーン/収蔵ゾーン/管理ゾーン/共用その他                    |
| 13 | 2001 東村立新富弘美術館建設国際設計競技                  | 勢多郡東村 | 3,000  | 公募型設計競技   | -   |
| 14 | 2000 (仮称) 青森県立美術館設計競技                   | 青森県   | 14,000 | 公募型設計競技   | 導入部門/展示部門/メディアセンター部門/コミュニケーションセンター部門/創作部門/調査研究部門/収蔵部門/管理部門/サービス及び共通部門 |

事業によって部門・ゾーン・空間・エリアなど、要項において要求されている領域の名称は異なっていた。そのうち来館者の入ることのできる領域を①導入系統、②展示系統、③教育普及系統、④サービス系統と分類し、それらの領域ないで来館者の入ることのできない諸室を抽出すると表 3 の様になった。

表 3. 来館者の領域で入ることのできない諸室

| 系統名     | 入ることのできない諸室名  |
|---------|---|
| ①導入系統   | 屋外倉庫  |
| ②展示系統   | 展示倉庫/機材倉庫   |
| ③教育普及系統 | 控室/備品倉庫/ボランティア控室/講師控室/給湯室/閉架書庫/会議室/書庫/映像編集室/機器素材庫/アトリエ利用者収納スペース/更衣室/創作担当スタッフ室/企画準備室/音楽編集室/システム管理室 |
| ④サービス系統 | 控室/倉庫/売店品倉庫   |

③教育普及系統内で要求されている諸室の種類が 16 種類となっており、他の系統と比較すると非常に多くなっている。これは、教育普及系統は他の系統に比べ、求められる機能が多様化しており、それにとともに必要とされる諸室が多くなっていると考えられる。

美術館での活動は多様化しており、それに合わせ新たな定義が必要になっていると考えられる。

### 4. バックヤードの位置づけ

今回の調査において、バックヤードの位置づけは、従来の建築計画学で定義される非公開部門と、来館者の入ることのできる領域内で、来館者が入ることのできない諸室と定義できる。また美術館活動の広がりとともに、バックヤードに求められる諸室の種類も変化していると考えられる。

### 5. まとめ

美術館の諸室全てを部門で分けることはできない。近年の美術館建築に対する要求から、美術館を計画する際、公開部門・非公開部門の大別と、各部門ごとの諸室構成だけでは計画が不十分なものとなってしまう。従来の計画にバックヤードの構成に対する考え方を加えることによって、求められる役割が拡張しているバックヤードで行われる活動や、それらに伴う整備に対して重要な意味を持つと考えられる。

### 【脚注】

注 1) 庄司加奈子・板橋誠二・鈴木直行・佐藤愛湖・阿部薫：館内学習活動「バックヤード見学」の効果と課題—一般来館者対象の「バックヤード見学」の実施—, 仙台市科学館研究報告第 23 号, pp.15-20, 2014.

注 2) 佐久間大輔・大原昌宏：資料管理と保全をめぐる対話と連携—市民参加型のバックヤードマネジメント—, 日本学術振興会, pp.37-42,

注 3) 参考文献 1 の pp.74-75, 参考文献 2 の pp.52-67 より作成

### 【参考文献】

- 1) 半澤重信：博物館建築 - 博物館・美術館・資料館の空間設計, 鹿島出版社, 1991.7
- 2) 谷口汎邦：建築計画・設計シリーズ 18 美術館, 市ヶ谷出版社, 1997.10
- 3) 日本建築学会：建築設計資料集成総合編, 丸善, 2001.06
- 4) 新建築学大系編集委員会：新建築学大系 30 図書館・博物館の設計, 彰国社, 1983.01
- 5) 大堀哲・水嶋英治：博物館学 I - 博物館概論・博物館資料論 -, 学文社, 2012.4